

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p><b>1 18歳まで安心して医療を受けられるように</b> (20分)</p> <p>国内の出生数が昨年、初めて80万人を割り込むなど、少子化が深刻な社会問題となっています。</p> <p>こうした中、政府は3月31日「異次元の少子化対策」の具体策をまとめた、「たたき台」を発表し、今後3年間で「集中取組期間」として対策を加速させる方針を示しました。この「たたき台」には、昨年11月に公明党が発表した「子育て応援トータルプラン」の主張が随所に反映され、より実効性のある具体的な子育て支援が期待されています。</p> <p>また、政府が6月にまとめる今年の「経済財政運営と改革の基本方針（骨太の方針）」に、東京23区などで実施している高校生までの医療費無償化を全国に拡大するための財政支援、そして、地方移住者や地方で出産・子育てする人への経済負担の軽減策として、奨学金の返済減免が要請されているとの報道もあります。</p> <p>現在、子育て支援の一環として、家庭の経済状況に関係なく、必要な時に子どもが医療を安心して受けられるよう、また、地域・社会全体で、子育てを応援していくという観点から、各自治体でも医療費の助成、無償化の動きが広がっています。</p> <p>厚生労働省が発表した調査結果（令和3年4月）によりますと、1,741の全市区町村が0歳から医療費を助成。中学生や高校生までを助成対象にしている市区町村が通院で94%、入院で97%を占めています。鶴ヶ島市でも15歳まで医療費無償化の対象となっており、物価高の続く中、子育て世帯の負担軽減の大切な一翼を担っています。</p> <p>一方で、医療費の助成・無償化で問題になる点の1つとして「過剰受診」がありますが、お子さんに「かかりつけ医」がいることで、信頼する医師からの適切な診察・指導により、抑制できるのではないのでしょうか。幼児から小学生までの子を持つ親を対象にした「鶴ヶ島市 子育て支援に関するアンケート（平成30年）」の中で、「お子さんにかかりつけ医がいる」が94.6%に上っており、「かかりつけ医」に対しての意識は高いと考えられます。</p>	市長

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>更に、政府も医療費助成の拡充へ本格的に動き出しています。医療費の独自助成を行う自治体に対して、国が国民健康保険の国庫負担を減額する罰則がありましたが、今年3月31日に政府が罰則自体を廃止する方針を示しました。それを受け4月5日には、厚生労働省が高校生までの罰則を廃止すると発表しました。各自治体での医療費助成の拡充へ、追い風になると期待されます。</p> <p>そこで、子育て支援の重要な取り組みとして、鶴ヶ島市でも現在の制度から、もう一步踏み込んだ、高校卒業までの子どもたちが安心して医療を受けられるように、18歳までの医療費の無償化についてお伺い致します。</p> <p>(1) 高校生まで入院も通院も所得制限なしで医療費の無償化を実施している自治体の動向について</p> <p>ア 県内の状況について、全国的な状況について</p> <p>イ 国や県の財政支援などの状況と動向について</p> <p>(2) 過剰受診の現状と対応について</p> <p>ア 鶴ヶ島市での状況と対応について</p> <p>イ かかりつけ医との過剰受診対策について</p> <p>(3) 現物給付など独自助成への罰則の影響について</p> <p>(4) 18歳までの医療費の無償化を</p> <p><b>2 小中学生に食のセーフティーネットを（20分）</b></p> <p>育ち盛りの子どもが、物価高や家庭の事情に関係なく、十分な栄養を取れる環境を整えるため、また、子育て支援の一環として、学校給食の無償化・保護者負担軽減の取り組みが、各自治体で広がりを見せています。家庭環境による“栄養格差”をどう改善するかという点でも、そして、子どもたちの「食のセーフティーネット」を確保するという面からも、学校給食の果たす役割は大きいといえるのではないのでしょうか。</p> <p>文部科学省が昨年7月末に行った調査では、給食費の保護者負担軽減を「実施している」「実施を予定している」と答えた自治体は合わせて1,491と全体の83.2%に上っています。自己財源で実施する自治体もありますが、「実施を予定している」812自治体のうち96%は地方創生臨時交付金を活用しています。</p>	<p>市長 教育委員会教育長</p>

質問の件名及び質問の要旨（質問時間）	答弁を求める者
<p>政府は4月、公立小中学校の給食費を無償にする制度設計に向け、課題整理に乗り出しました。6月には全国の実態調査が始まる予定です。無償化に踏み切った自治体の理由や、子どもへの影響などについて調査・分析することは、まだ無償化していない自治体にとって、また鶴ヶ島市にとりましても貴重な資料になると考えられます。</p> <p>子どもたちの大好きな、そして大切な栄養源でもある、美味しい小中学校の給食の無償化について、以下の点をお伺い致します。</p> <p>(1) 無償化への課題について</p> <p>ア 地方創生臨時交付金を活用せずに無償化に取り組んでいる自治体の状況について</p> <p>イ 公明党市議団として第3子からの助成について提案させていただきましたが、その検討について</p> <p>(2) 鶴ヶ島市での給食費無償化を</p>	